

【特別推進研究】

人文・社会系



研究課題名 知識と技術の世代間伝播の霊長類的基盤

京都大学・霊長類研究所・教授

まつざわてつろう
松沢 哲郎

研究分野：心理学、実験心理学

キーワード：知識、技術、親子関係、おばあさん、チンパンジー、世代間伝播

【研究の背景・目的】

人間を特徴づける認知機能とその発達のな変化の特性を知るうえで、それらが「どのように進化してきたか」という理解が必要不可欠である。本研究は、①人間にとって最も近縁なチンパンジー属2種（チンパンジーとボノボ）を研究対象に、②野外研究と実験研究を組み合わせ、③認知機能の生涯発達と世代を超えた知識や技術の伝播に焦点をあてることで、人間の認知機能の特徴を明らかにすることを目的とする。

【研究の方法】

世界に類例のない新たな試みとして、同属別種であるチンパンジーとボノボの双方を対象に、野外研究と実験研究を組み合わせ、とくに生涯発達において重要な生後の3年間の認知発達と、祖父母—父母—子どもという3世代を超えた知の伝承について実証的な研究をおこないたい。これまでチンパンジーについての研究環境は野外も実験室も整備されてきたが、ボノボの実験研究についてはゼロからの立ち上げになる。チンパンジーの野外研究はギニアのボソウの1群13個体、実験研究は霊長類研究所の1群14個体が主な対象だ。ボノボの野外研究はコンゴの1群27個体、実験研究は京大熊本サンクチュアリに平成24年度に北米から導入する1群5個体が対象になる。「ヒト科3種」の比較研究を進める。ボノボ研究を本格的に始めるために平成22年度から3度の予備調査をおこないまず野生ボノボの研究をコンゴで開始した。平成24年度からは、ギニアの野生チンパンジーとコンゴの野生ボノボの長期継続野外研究を粛々と進める。



図1 数字の作業記憶課題をするアユム

【期待される成果と意義】

チンパンジーとボノボは、サピエンス人とネアンデルタール人の関係に等しい。男性優位で攻撃的で隣り合う群れが殺し合い多様な道具を使うチンパンジーと、女性優位で平和共存的でほとんど道具を使わないボノボ。両者の共通部分こそが、人間の本性を考えるアウトグループになる。外国を見ることで日本がわかる。同じ論理で、人間のすぐ外側にいるチンパンジーとボノボの研究によって、はじめて人間の本質が見えてくると考えた。他に類例をみない「実験研究と野外研究を融合させた新たなアプローチ」によってチンパンジーとボノボの認知機能の生涯発達の全体像の把握が著しく進むだろう。



図2 野生ボノボの親子（コンゴ盆地にて）

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・Matsuzawa et al eds. (2006) Cognitive development in chimpanzees. Springer.
- ・Matsuzawa et al., eds. (2011) The chimpanzees of Bossou and Nimba. Springer.
- ・松沢哲郎（2011）想像するちから、岩波書店。

【研究期間と研究経費】

平成24年度—28年度
310,000千円

【ホームページ等】

アイのホームページ

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/>

「緑の回廊」のホームページ

<http://www.greenpassage.org/>